

三郷市自治基本条例 市民ワークショップ グループワークの記録

平成21年11月5日(木)午後6時30分～8時30分 @瑞沼市民センター講座室3

1. 自治基本条例に関する疑問・質問・意見

○議会による具体的な運用

- ・ この条例の運用に関して一番大きな課題は、議会がどう運用するのか、ということだ。
- ・ “地方自治”ということを経験がどれくらい理解しているのか疑問だ。草の根の活動、市民の意見を聴く、ということが少ない。
- ・ 議会を傍聴していても、質問が甘く、執行機関との緊張関係が緩んでいると感じる。
- ・ 議会審議をインターネットなどで生公開すべき。どの議員がどんな質問や意見を出しているのかを市民に公開することが必要だ。市民が議員をチェックするという視点を持ちたい。『議員の通信簿』をつくりたい。

○条例運用の検証

- ・ 議会、教育委員会、学校や市役所などの現場がどの程度この条例を理解し、実現しようとしているのか。
- ・ この市民ワークショップに参加した市民を主体に、条例の運用状況を検証するための勉強会を立ち上げてはどうか。
- ・ 条例の運用状況の検証を「三郷学」の一講座に入れてはどうか。

○行政の説明責任と市民の役割

- ・ 行政は、様々な市民の要望を聞いた上で政策の優先順位をつけて行うものであるため、市民は、自分が考える優先順位とは異なっても、市政に協力する姿勢が必要だ。
- ・ 行政は、市政運営の大きな目標やビジョンを明確にすべきで、その説明責任やPRの工夫が大切だ。

2. 自治基本条例の運用について

○三郷学講座

【三郷学の具体像について】

- ・ 三郷を知り、学び、行動するという基本的な精神は賛同するが、幅が広すぎてどのようなものなのか具体像が浮かばない。
- ・ テーマを絞って、ひとつずつのテーマを順番に取り上げたらどうか。

【三郷市のビジョンの明確化】

- ・ 三郷市は、まだ“発展途上のまち”と認識している。各地域がバランスよく発展してほしい。
- ・ 市長の姿が見えない。市長が自らの言葉で三郷市のビジョンを語ってほしい。

【三郷市の特長のPRを】

- ・ シルバー元気塾の活動が活発だということだが、この取組みによって三郷市民の健康促進に効果があり医療費がどれくらい減少したのか、といった市の財政への効果を調査しているのか。効果が出ているなら、市報や他の広報の手段を使って、もっと上手くPRすべき。
- ・ 三郷市の特長をうまくPRすることが三郷学につながると思う。
- ・ 三郷学の学習の結果、三郷市を好きになる、誇りを持てる、三郷市を市外の人に紹介できるようになるといい。

【市史に残っていないことを学ぶ】

- ・ 三郷市の民俗、風俗、民話など、実際の生活や暮らしを体験しながら、市史には残っていないような歴史を学べると面白い。

【地域活動を体験する学習を取り入れる】

- ・ 小学校のカリキュラムと連携するなら、ゴミ拾いなどのボランティア活動を三郷学として取り入れてほしい。地域活動は言葉で教えるだけではなく、行動することが大切であり、教育方法も体験的であるべき。

【三郷学を市民とともにつくるプロセス】

- ・ 三郷学を開講する前に、市民と一緒に内容や方法を検討する場はあるのか。
- ・ このような市民ワークショップや来年の2月21日に予定している三郷学フォーラムにおいて市民の声を聴くことが大切だ。

【三郷学の共通理解をつくる工夫を】

- ・ いろいろな参加の場面で、三郷学をPRすべき。三郷学のパンフレット等を作成し、市民と行政が「三郷学」の認識を共有するものが必要。

○協働の推進

【市民と協働する行政の意識改革を】

- ・ 協働を推進する制度も大切だが、その前提として職員の意識改革が必要だ。市民の意見、提案だけでなく苦情も活かす意識を持つべき。
- ・ 市民と協働するためには、市民の意見を受け入れる、受け取る意識と制度が必要だ。
- ・ 窓口対応の記録を残すような仕組みがあるといい。
- ・ 管理職はこの視点から率先して人材育成をしてほしい。

【行政情報の分かりやすい提供を】

- ・ 市民による参加や提言、市民と市との協働の前提として、計画や予算の見方、つくり方などを分かりやすく情報提供することが必要だ。
- ・ 政策の進捗状況の情報提供と参加・協働は双方向に行われるべき。
- ・ 情報は公開されているが、市民が見ても分からないし、気づかないことが多い。どんな視点で資料やデータを読み取ればいいのか。
- ・ 情報の出し方は、市民から働きかけて変わることもある。市民側が意識的に声を上げていくことも重要だ。
- ・ 行政は、市民に分かりやすい簡素化した文章とするべきだが、市民側も、見る目を養う必要がある。
- ・ たとえば、議員が市の財政状況について、資料の読み方をレクチャーするような取り組みがあってもいい。市民は議員をチェック、評価し、議員は市民にチェックする視点を持たせる、というようにお互いがお互いを育てる関係になりたい。

○コミュニティ活動拠点

【小学校の空き教室を地域の拠点とする】

- ・ 小学校の空き教室を地域住民の集まる場として使うことはできないか。児童がいるため多世代交流にもなる。

【町会集会所の有効利用】

- ・ 町会の集会所に助成金が出ている。集会所は町会の集まりに限定するのではなく、他の活動にも使えるようにしたい。現状では、閉鎖的な利用しかされていない。
- ・ 施設の有効利用を図ろうとすると、責任の所在をどうするかが課題である。

【公共施設と市民ニーズの把握】

- ・ 休館日が多い、使いたい曜日に休館している、開館時間が短い、料金が高いなど、施

設が住民ニーズに合っておらず、使いにくい。住民のニーズを聞いた上で決めて欲しい。